

㊦ 放射線性出血性膀胱炎に伴う 血尿に対する漢方薬の効果

ベルランド総合病院

玉田 聡

【はじめに】

骨盤内の放射線治療に起因する放射線性出血性膀胱炎は、放射線治療の合併症のなかでも治療困難なものの1つであり、症状として血尿、膀胱刺激症状が認められる。治療法として種々の薬物治療が行われることが多いが、重症例になると血尿のコントロールが困難になり、外科的対応が必要になることもあるため、患者のQOLを損なう原因にも繋がってくる。そこで今回我々は、骨盤内放射線治療後に出血性膀胱炎を発症した患者に対し、慢性化した排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿などに用いられる猪苓湯合四物湯を用いて、放射線性出血性膀胱炎に伴う血尿に対する有効性について、後ろ向きに検討したので報告する。

【対象】

2017年から現在まで猪苓湯合四物湯を処方した23人のうち、放射線性出血性膀胱炎に対して投与した12人を対象とした。猪苓湯合四物湯を7.5g/1日分3で投与した。投与期間の中央値は119日であった。

【結果】

12人のうち継続して経過観察できた症例は10例であった。血尿が消失した症例は8例であった。無効であった2例のうち1例は尿路変向術、1例には経尿道的手術が行われた。猪苓湯合四物湯使用に伴う有害事象は特に認めなかった。

【考察】

猪苓湯合四物湯は、猪苓湯と四物湯を組み合わせた処方であり、臨床では慢性で再発を繰り返す尿路系疾患に使用されている。猪苓湯は尿道炎、血尿、排尿痛、腎石症等に使用され、ここに血管弛緩作用、貧血改善作用、抗炎症作用を持ち、慢性的に体力が低下した患者に使用する四物湯を組み合わせることにより、繰り返し発生する、尿道炎や血尿に効果があると考えられている。同様に放射線性出血性膀胱炎患者の諸症状は、罹病期間も長く症状も繰り返し発生するため猪苓湯合四物湯の効果があったと考えている。

【結語】

放射線性出血性膀胱炎に伴う血尿に対して猪苓湯合四物湯は有用である可能性が示されたと共に、患者のQOL改善に貢献できる可能性がある薬剤だと考えられた。